2018年(平成30年)3月期
決算説明

2018年5月17日

鉱研工業株式会社

決算の概要

（単位：百万円）

	連結			個別		
	17/3期	18/3期	増減	17/3期	18/3期	増減
受注高	7,291	7,520	228	6,429	6,689	260
売上高	6,795	7,448	652	6,187	6,364	176
営業利益	185	71	Δ 114	185	Δ 43	Δ 228
経常利益	197	69	Δ 127	236	11	Δ 224
当期純利益	298	Δ 30	Δ 328	331	Δ 44	Δ 375

	17/3期	18/3期	増減	17/3期	18/3期	増減
総資産	7,475	7,784	309	7,214	7,410	196
有利子負債	1,066	1,210	144	1,066	1,210	144
自己資本 (自己資本比率)	3,564 (47.7)%	3,451 (44.3)%	Δ 113 (Δ3.4)P	3,500 (48.5)%	3,366 (45.4)%	Δ 133 (Δ3.1)P

2018年3月期決算（連結）のポイント

売上高増加

652百万円
（9.6%Up）

原価率大幅アップ

4.3ポイントUp

粗利益減少△152百万円

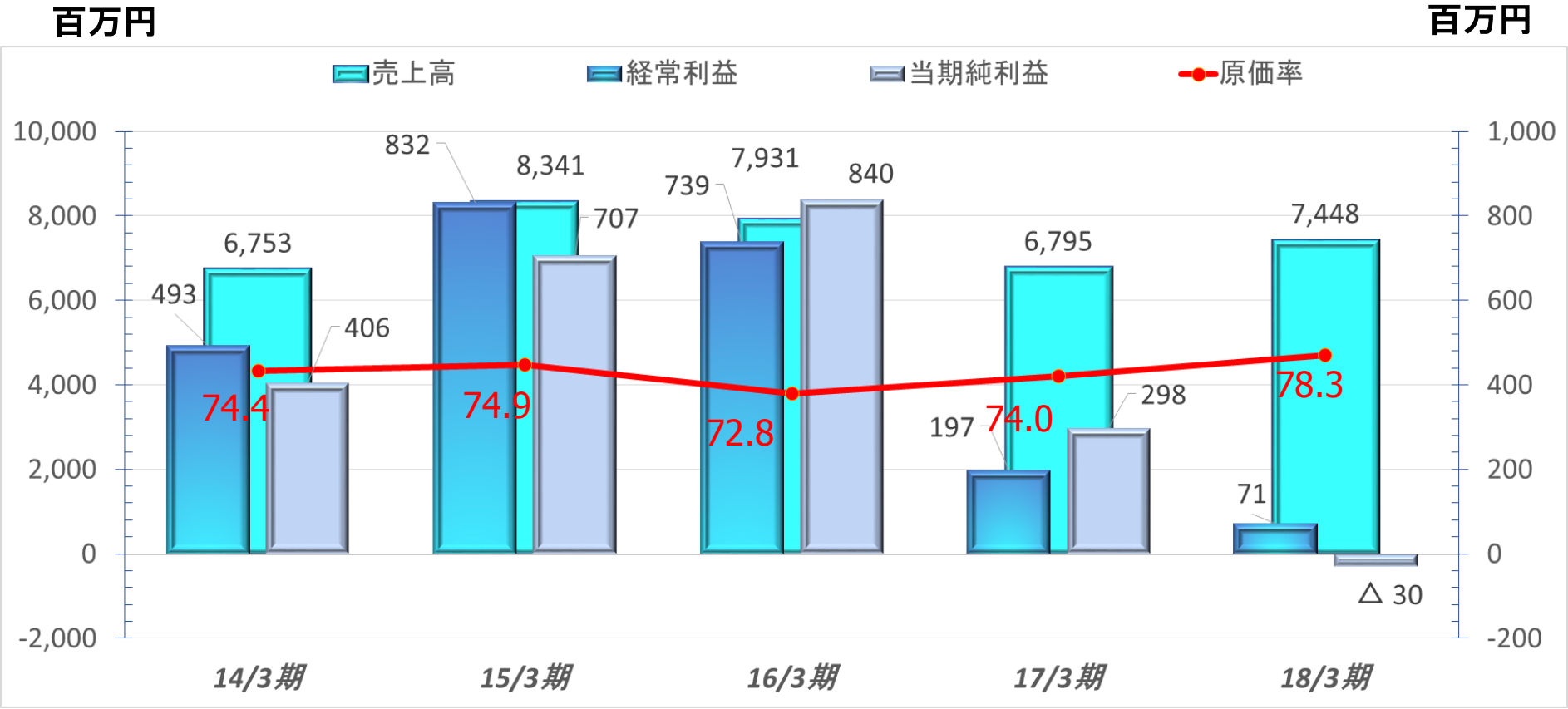
販管費△38百万円減少

繰延税金資産39百万円取崩し

当期純損失△30百万円

- 売上高は7,448百万円、前期比652百万円増
  ～ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器は、海外はODA案件により増加したが、国内が大きく減少したことにより△335百万円減（RPD-160C減による特機中心販売）
  ～工事施工はﾄﾝﾈﾙ先進調査工事好調やﾘﾆｱ関連長尺ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ工事、更に特殊案件の福島第一原発ｻﾌﾞﾄﾞﾚｲﾝ工事などにより987百万円増
- 原価率は78.3%、+4.3ポイント大幅増で粗利益△152百万円減
- 販管費は、研究開発費は微増するも、経費節減にて前期比△38百万円減
- 結果、営業利益71百万円、経常利益69百万円、当期純損失△30百万円
- 営業ｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰは535百万円の資金収入

売上高・利益の推移

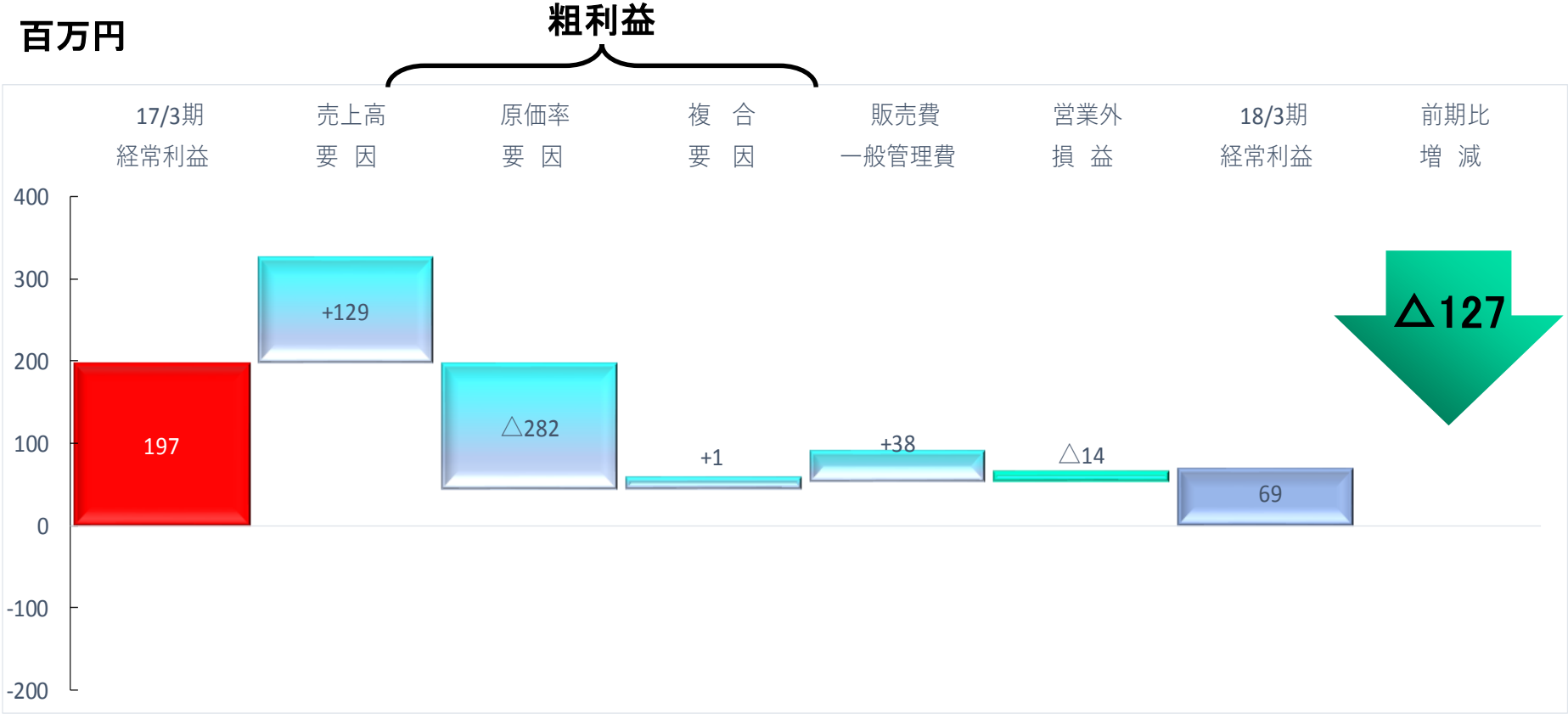


2016中計
1年目

2016中計
2年目

前期との経常利益差異要因

- 粗利益は△152百万円減少
  ～売上高652百万円増加によりにより129百万円増益、しかし、
  原価率+4.3ポイントアップ（74.0 ⇒78.3%）により△282百万円の減益
- 販売費及び一般管理費は38百万円減少するも営業外損益14百万円の支出により、経常利益は69百万円となる。前期比では△127百万円の減益



要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	17/3期	18/3期	前期比増減	
売上高	6,795	7,448	652	9.6%
売上原価 (原価率)	5,027 (74)%	5,833 (78.3)%	805 (+4.3)P	16.0%
売上総利益	1,768	1,615	△ 152	△ 8.6%
販売費管理費	1,582	1,544	△ 38	△ 2.4%
営業利益	185	71	△ 114	△ 61.5%
営業外損益	11	△ 1	△ 13	△ 113.9%
経常利益	197	69	△ 127	△ 64.6%
特別損益	△ 1	0	2	△ 144.5%
法人税住民税	38	54	16	41.4%
法人税等調整額	△ 141	39	181	△ 128.2%
親会社株主当期純利益	298	△ 30	△ 328	△ 110.1%

受注状況･･･受注高は前期比3.1%増加

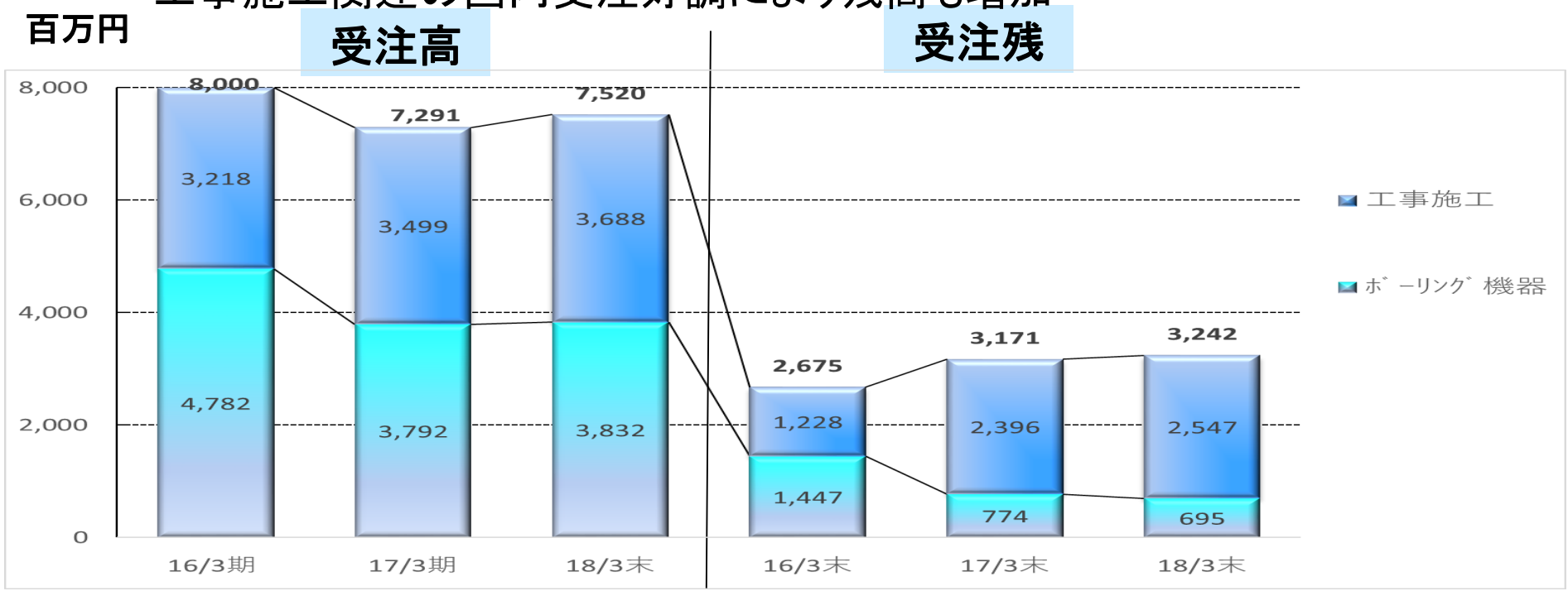
■受注高は7,520百万円、前期比228百万円増加

～ ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器：39百万円増･･･国内はRPD機の受注が減少する中、特機中心に受注するも△16百万円減、海外は主に中国（FS-120CZ　3号機）、ODA案件（ﾄﾗｯｸﾏｳﾝﾄ型水井戸機）の受注で55百万円増

～ 工事施工：188百万円増･･･ﾄﾝﾈﾙ先進調査工事、長尺ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ工事、温泉掘削工事、特殊井戸工事を受注

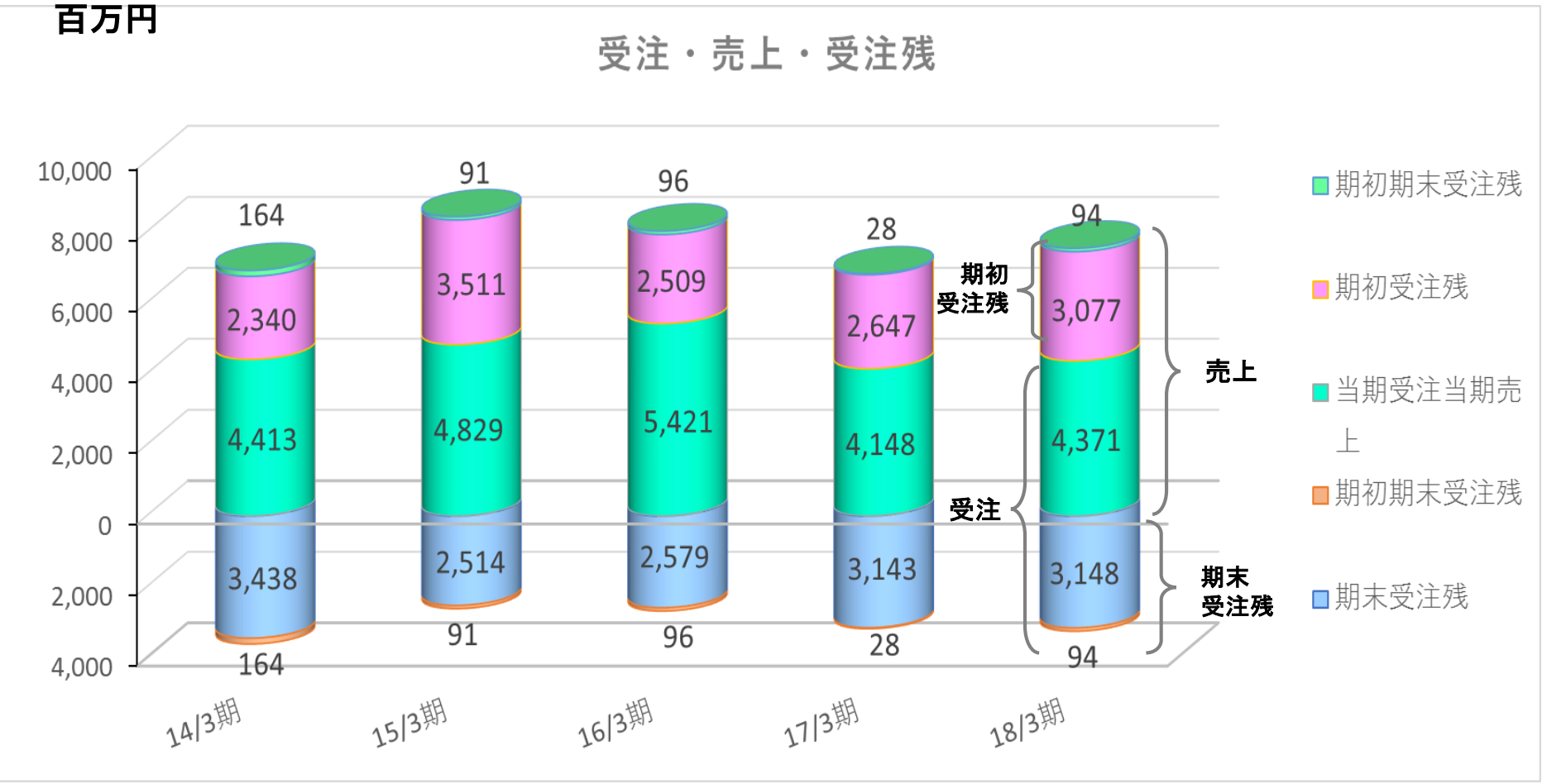
■18/3末受注残は、3,242 百万円、前期末比71百万円（+2.3%）増加

～ 工事施工関連の国内受注好調により残高も増加

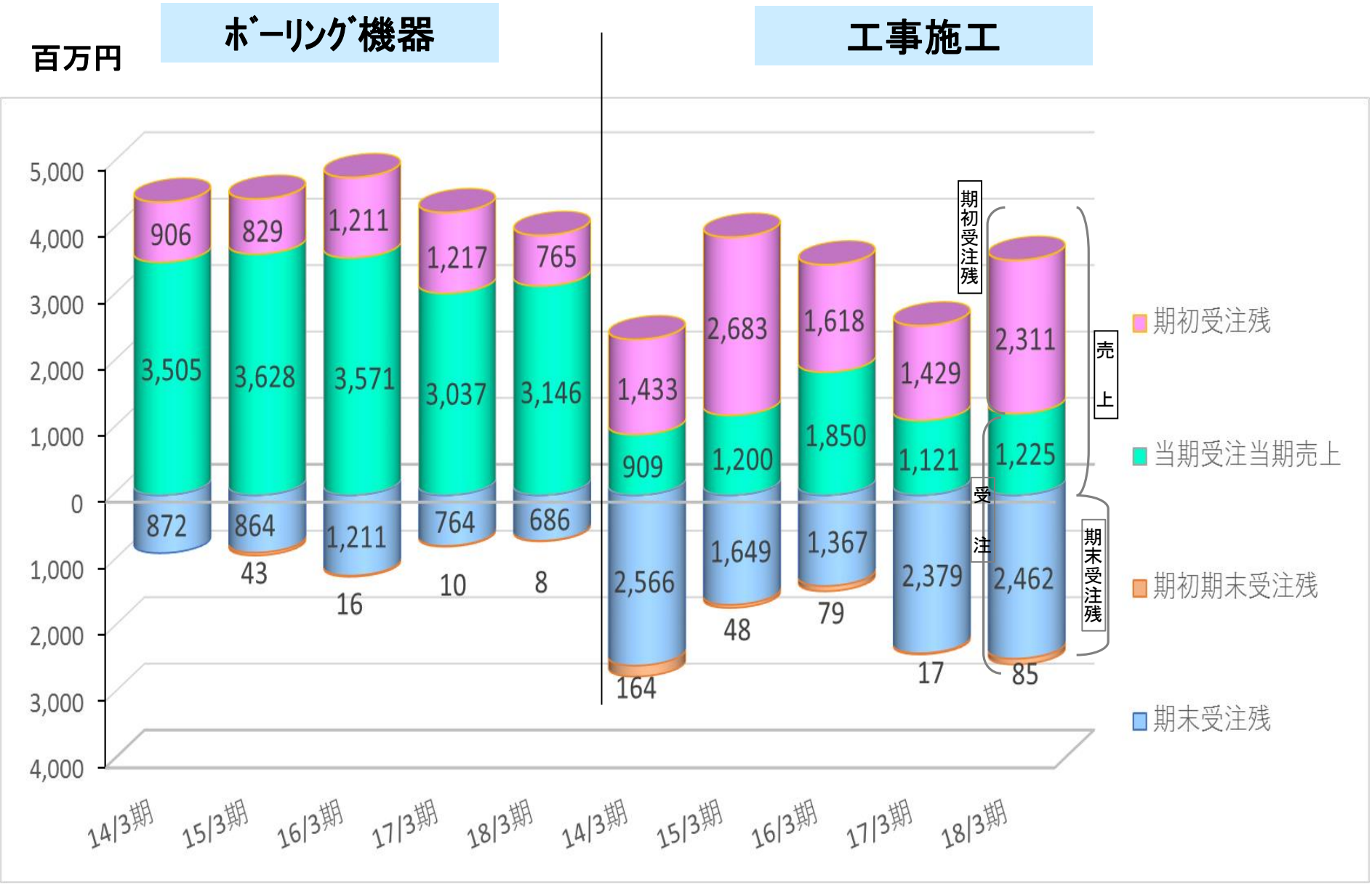


受注・売上・受注残

- 期初受注残3,171百万円のうち、3,077百万円が当期売上に寄与
  ～ 期中受注額7,520百万円のうち4,371百万円が当期に売上計上
- 期末受注残は3,242百万円（うち当期受注分3,148百万円）

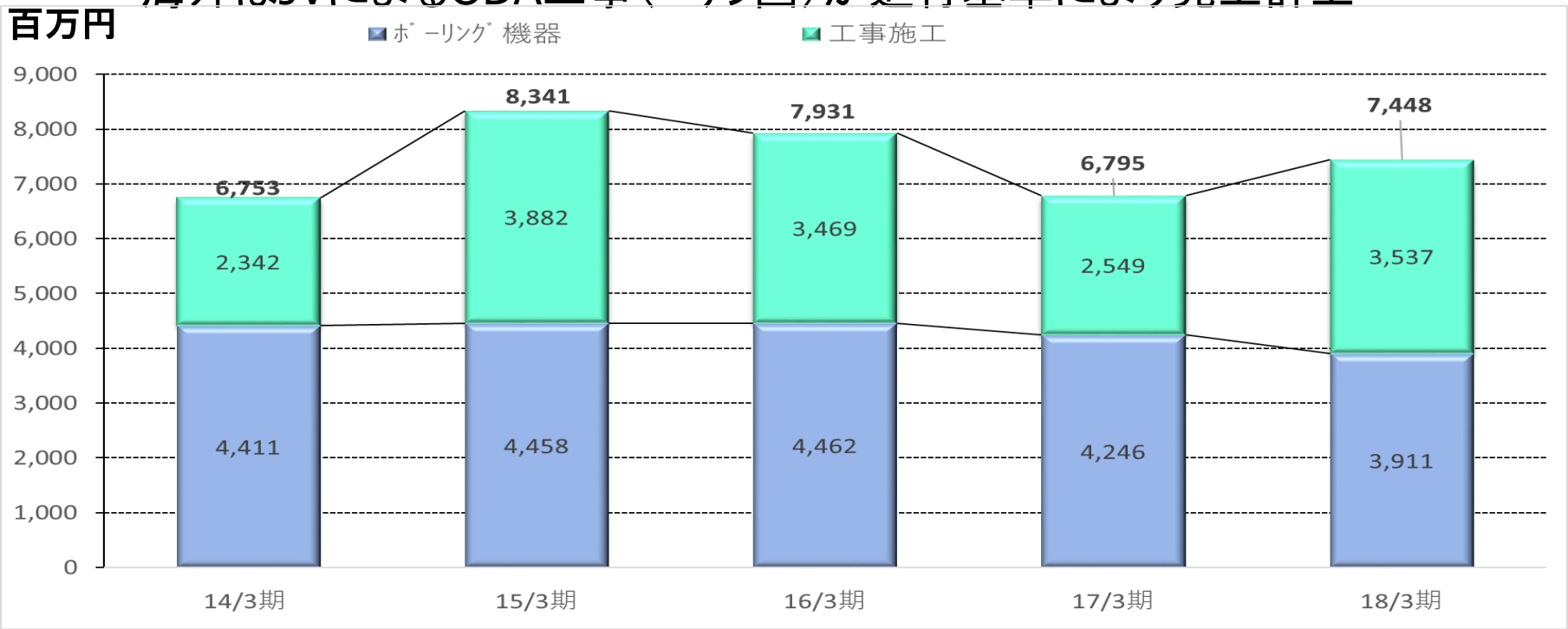


セグメント別受注・売上・受注残



売上高･･･前期比+652百万円（9.6%）増加

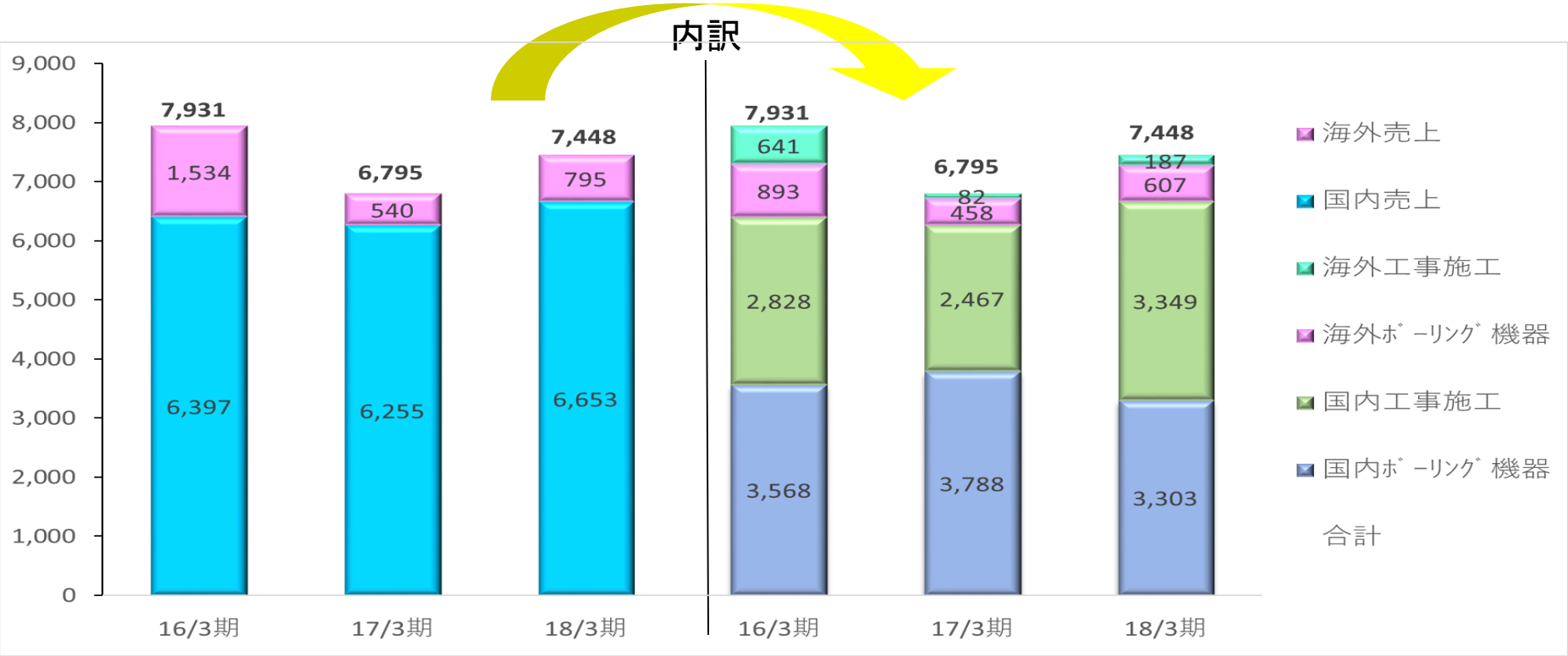
- ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器3,911百万円、前期比△335百万円減
  ～ 国内の販売はRPD機の出荷が減少したため、海外輸出（主に中国向け、ODA案件）は増加したが、全体販売売上高は減少
- 工事施工3,537百万円、前期比987百万円増
  ～国内ではﾄﾝﾈﾙ先進調査工事、長尺ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ工事、温泉掘削工事、地下水関連工事、ｱﾝｶｰ工事、特殊井戸工事が完工
  海外はJVによるODA工事（ﾍﾞﾅﾝ国）が進行基準により売上計上



海外売上高…前期比47.0%増

- 海外売上は前期比254百万円増の795百万円
  - ～ ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器は、主に中国向けとODA水井戸案件（3件）により前期比149百万円増の607百万円。（ﾔﾝｺﾞﾝ支店での標準型ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞﾏｼﾝ･ﾂｰﾙｽ販売は、現地代理店や日系ｾﾞﾈｺﾝを通じて東南ｱｼﾞｱ地区市場開拓を促進中）
  - ～ 工事施工は、JVによるODA工事（ﾍﾞﾅﾝ国）を進行基準にて売上計上したため、前期比105百万円増の187百万円（+127.7%）

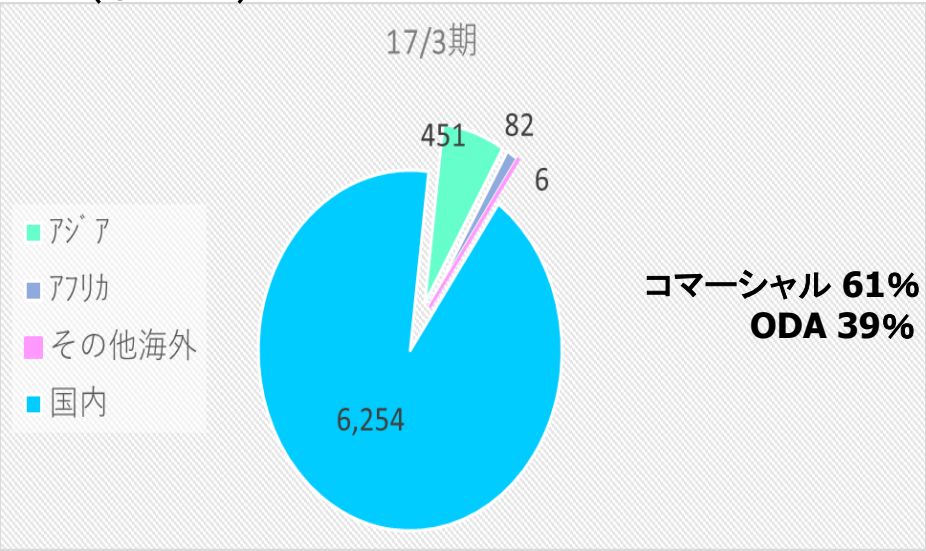
百万円



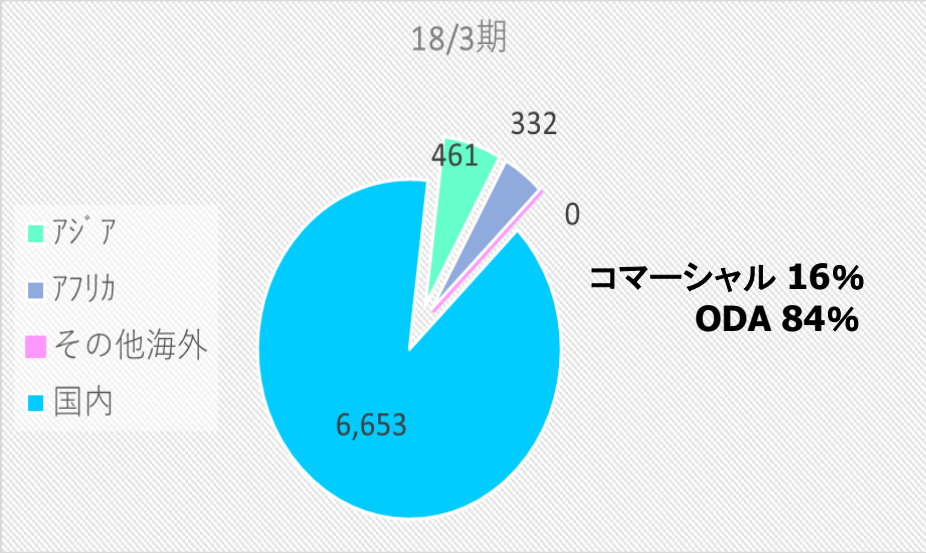
地域別売上高･･･海外売上比率10.7%（+2.7ﾎﾟｲﾝﾄ）

（18年3月期の主な輸出国）

- アジア (58.0%)
  - ﾐｬﾝﾏｰ、ﾊﾟｷｽﾀﾝ：ODA水井戸掘削機器
  - 中国：ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞﾏｼﾝ及びﾂｰﾙｽ
  - ｽﾘﾗﾝｶ、韓国、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ、ﾌｨﾘﾋﾟﾝ：ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞﾛｯﾄﾞ及びﾂｰﾙｽ
- アフリカ (41.9%)
  - ﾍﾞﾅﾝ：ODA水井戸工事(JV)
  - ﾏﾘ：ODA水井戸掘削機器
- その他（0.1%）
  - ﾎﾞﾘﾋﾞｱ、ﾛｼｱ、ﾆｭｰｶﾚﾄﾞﾆｱ：ﾂｰﾙｽ



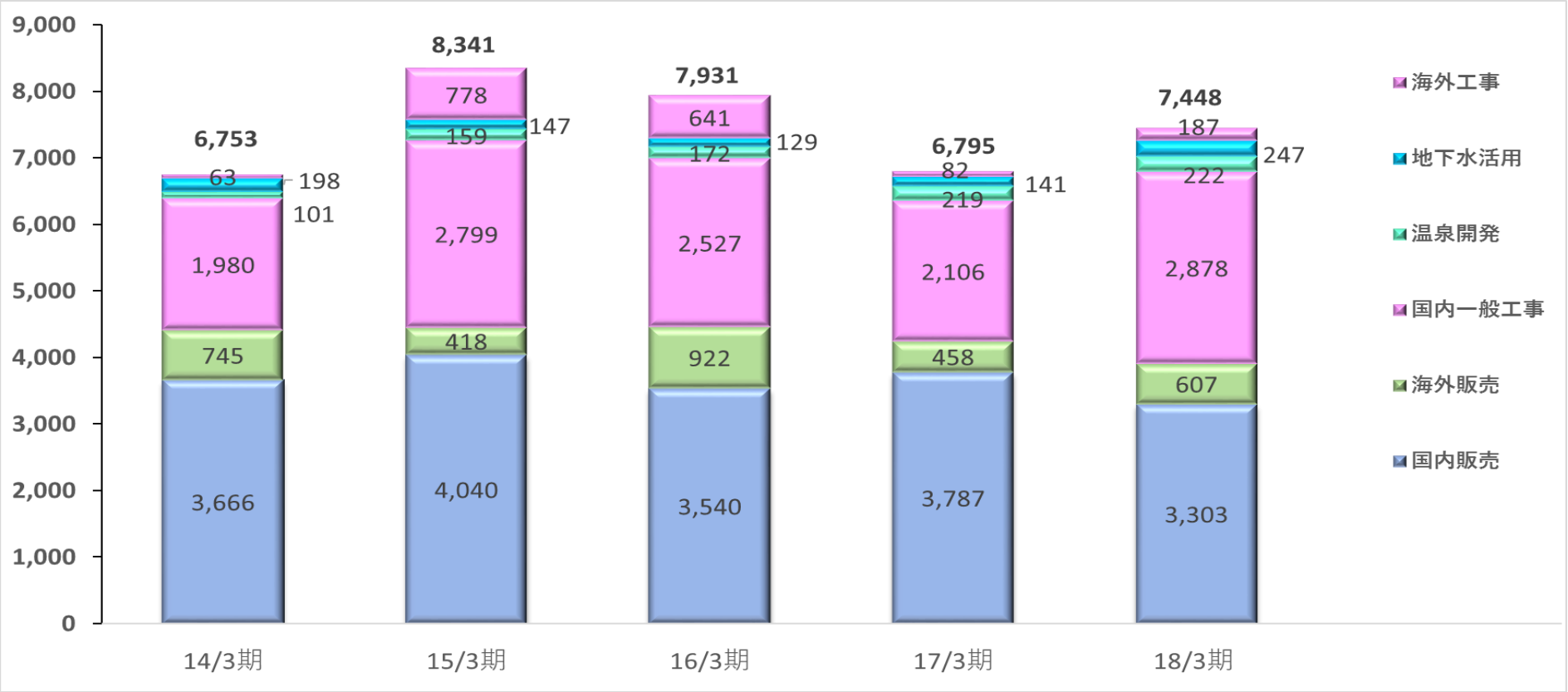
海外売上高　540百万円



海外売上高795百万円

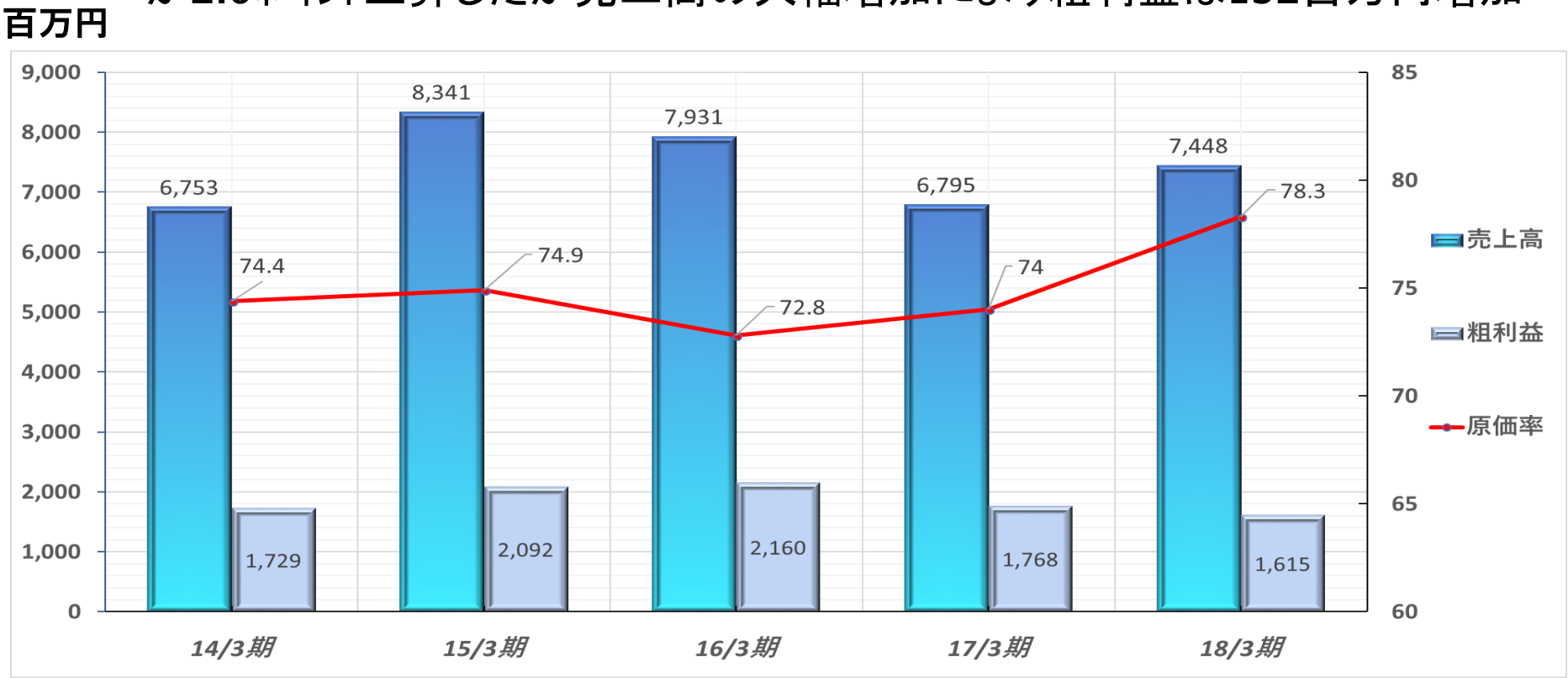
売上高の内訳

- ボーリング機器合計は、前期比△335百万円減少
  ～ 海外販売は増加するも、国内販売が大きく減少
- 工事施工合計は、前期比987百万円増加
  ～ ﾄﾝﾈﾙ調査工事、ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ工事、地下水、温泉工事及びｱﾝｶｰ工事増加（小型の大口径立坑掘削工事、特殊井戸工事、海外ODA工事（ﾍﾞﾅﾝ）



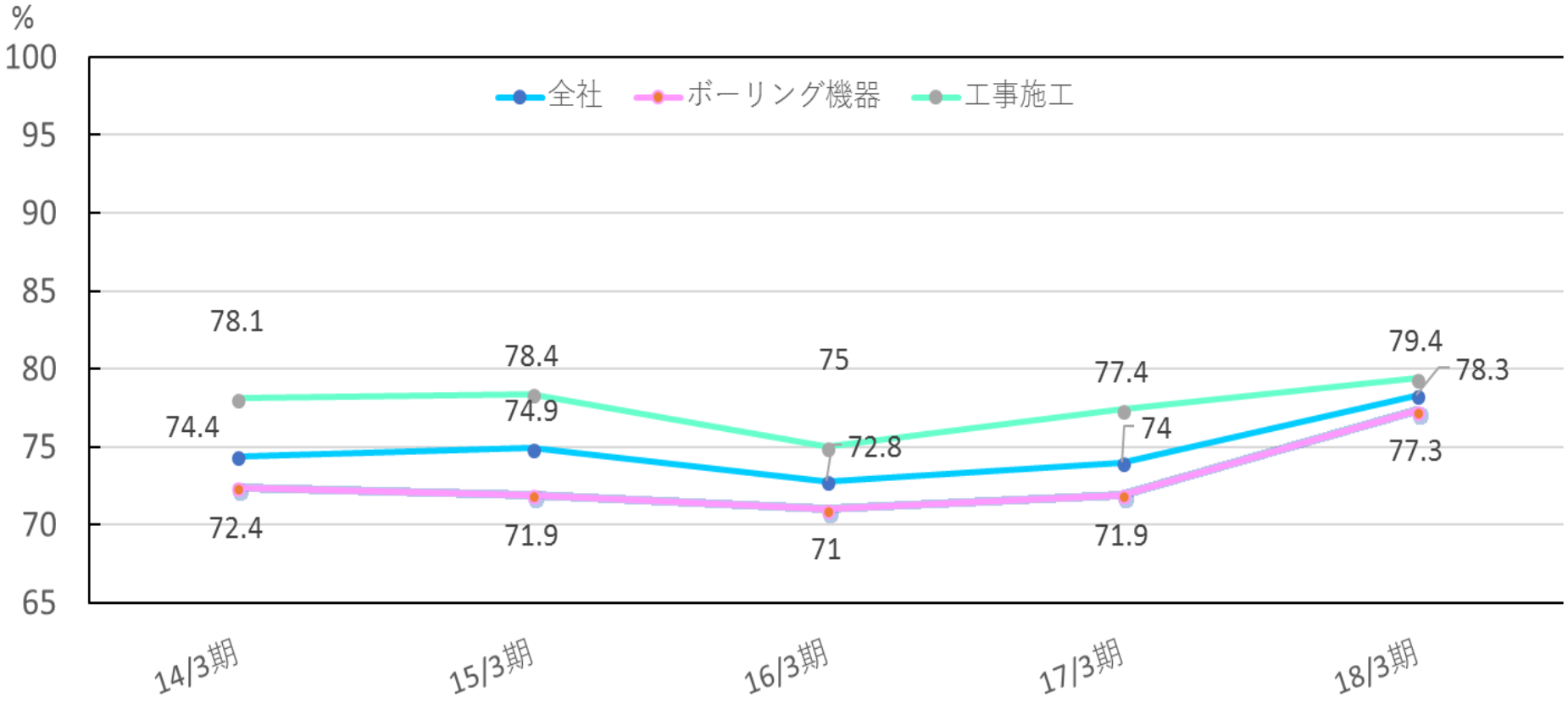
粗利益の推移･･･前期比8.6%減

- 粗利益は1,615 百万円の前期比△152百万円減
  ～ 売上高は増加（+652百万円）するも、原価率4.3ﾎﾟｲﾝﾄ増
  ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器関連は売上高減少に加え、特機の手戻り･やり直し作業の発生により原価率が5.4ﾎﾟｲﾝﾄ上昇したため、粗利益は△305百万円減少
  工事施工関連は当社直営工事（BM工事等）が少なかったため、原価率が2.0ﾎﾟｲﾝﾄ上昇したが完工高の大幅増加により粗利益は152百万円増加



原価率の推移

- ボーリング機器の原価率は77.3.%
  ～ 売上高減少と特機関係の原価率アップにより+5.4ポイントアップ（特殊要因を除けば71%台が想定される）
- 工事施工の原価率は79.4.%
  ～完成工事原価率は国内当社直営工事の減少により+2.0ポイントアップ



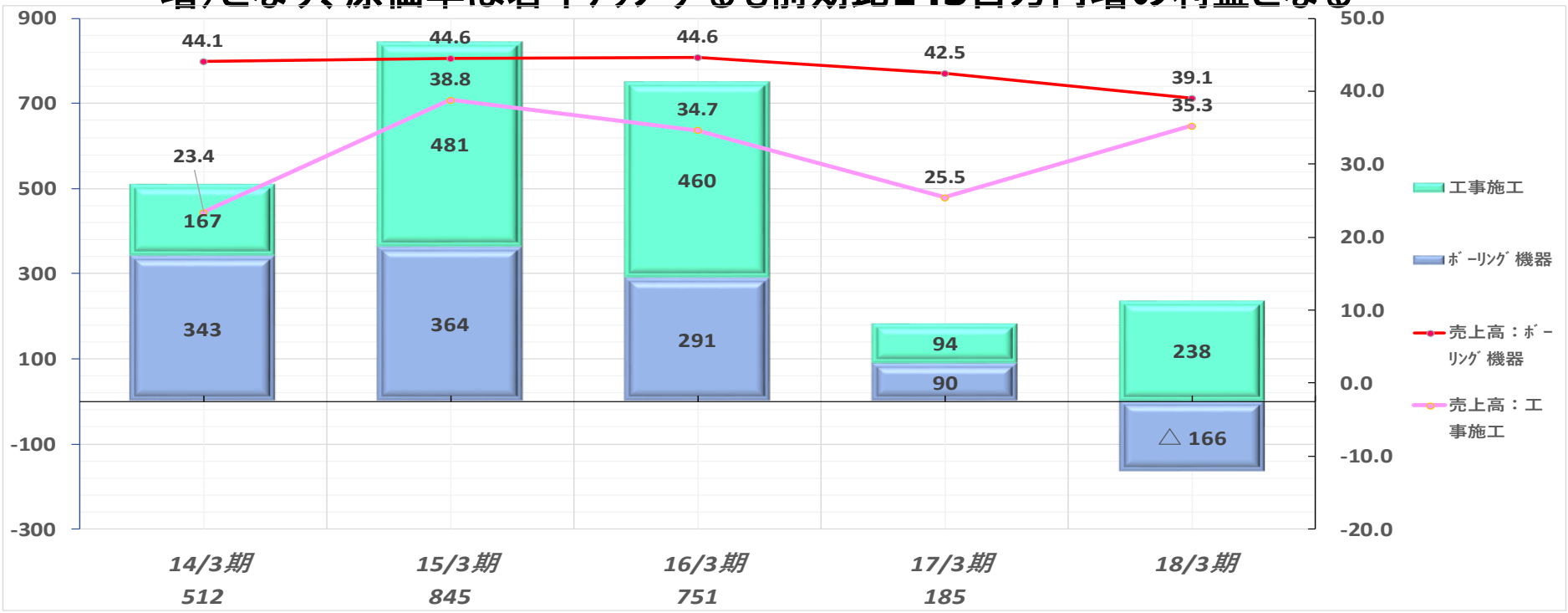
セグメント（営業）利益

- ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機器関連はセグメント損失△166百万円

～ 売上高3,911百万円（△7.9%減）と原価率大幅アップにより前期比△256百万円の利益減

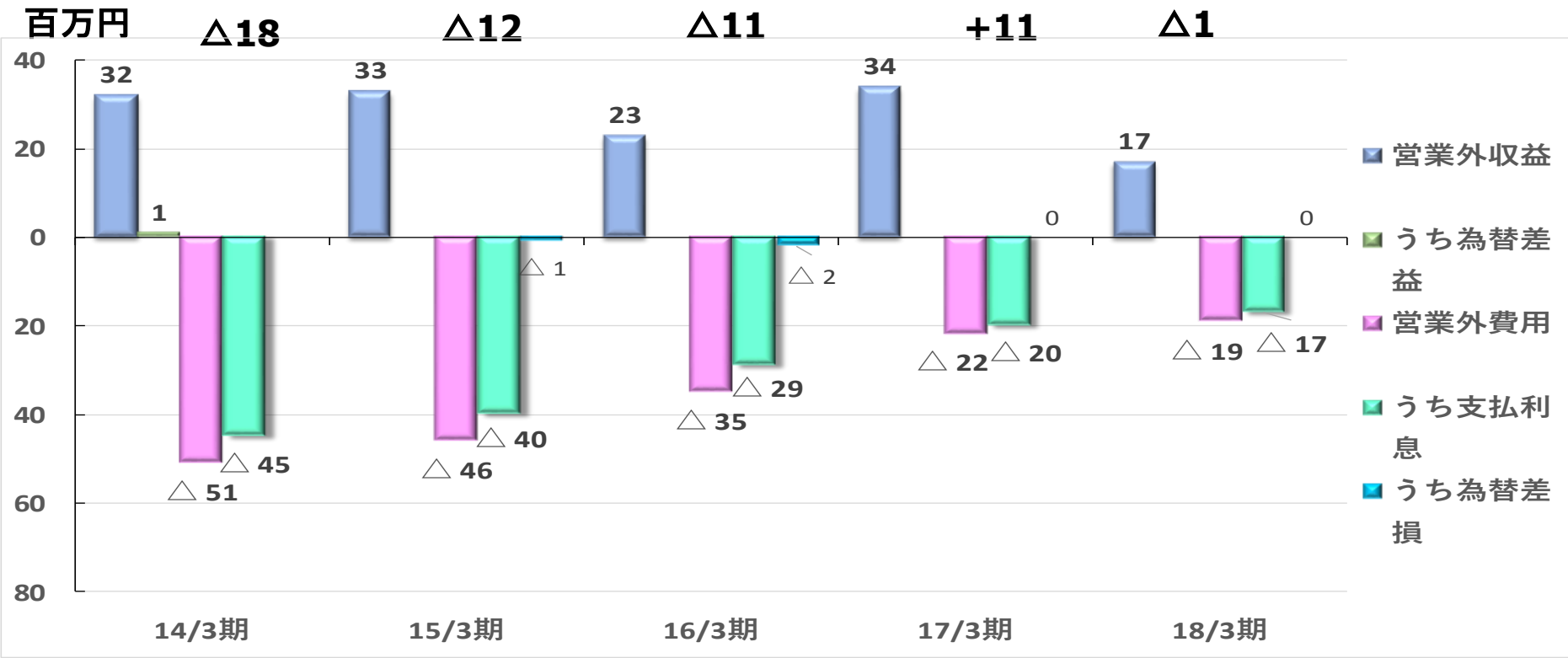
- 工事施工関連はセグメント利益238百万円

～ ﾄﾝﾈﾙ先進調査工事（北海道新幹線等）、長尺ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ工事（ﾘﾆｱ関連）、温泉掘削工事（ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ関連）、特殊井戸工事（ｻﾌﾞﾄﾞﾚｲﾝ）、ｱﾝｶｰ工事（都市再開発）、海外ODA工事（ﾍﾞﾅﾝ）などの完工により売上高3,537百万円（38.8%増）となり、原価率は若干ｱｯﾌﾟするも前期比143百万円増の利益となる



営業外損益･･･NETで1百万円の損失

- 営業外収益は前期比△ 16百万円減
  ～ 受取保険金3百万円、貸倒引当金戻入額2百万円
- 営業外費用は前期比△3百万円減
  ～ 効率的な資金運用により支払利息が△3百万円減少
  海外案件は円建て取引が主な為、外国為替相場の変動による影響は軽微（為替差損0.1百万円）



連結貸借対照表の概要（資産）

- 総資産は7,784百万円、309百万円増
- 流動資産381百万円増
  ～ 棚卸資産339百万円減少したが、現金預金と売上債権で689百万円増
- 固定資産は設備投資78百万円に対し減価償却107百万円実施したことと、繰延税金資産42百万円の減少により72百万円減

（単位：百万円）

	17年3月末	18年3月末	増減
現金及び預金	727	1,250	523
売上債権	2,132	2,298	166
棚卸資産	2,570	2,231	△ 339
その他流動資産	79	111	32
流動資産計	5,510	5,892	381
有形固定資産	1,523	1,497	△ 25
無形固定資産	29	25	△ 3
投資その他の資産	412	368	△ 43
固定資産計	1,965	1,892	△ 72
資産合計	7,475	7,784	309

連結貸借対照表の概要（負債・純資産）

- 負債は4,322百万円、416百万円増
  ～ 有利子負債は1,210百万円、144百万円増（但し、D/Eレシオは△0.01倍）
- 18/3末自己資本は, 3,451百万円（非支配分除く）、自己資本比率44.3%

（単位：百万円）

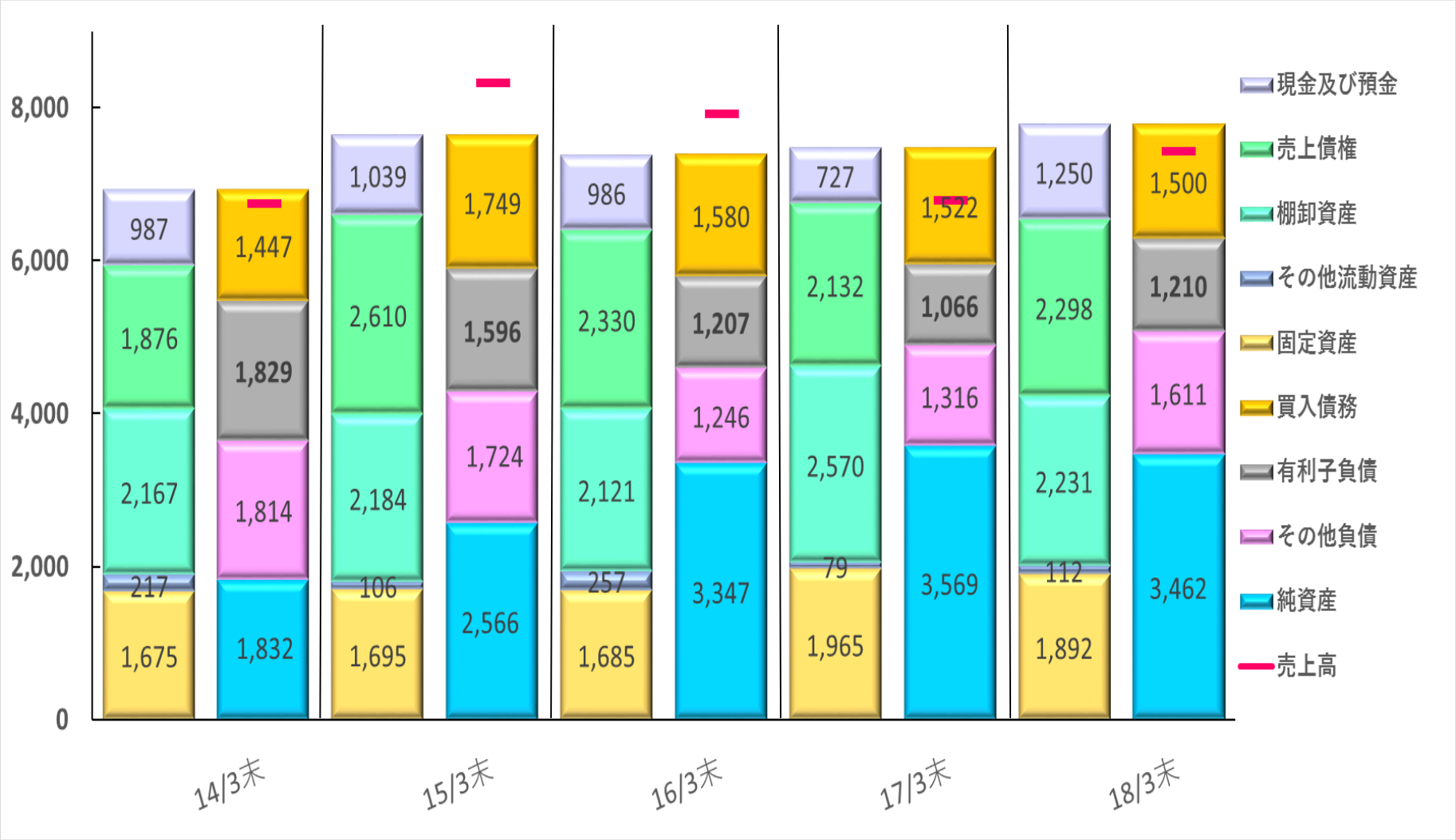
	17年3月末	18年3月末	増減
買入債務	**1,522**	**1,500**	△ 22
短期借入金	**582**	**707**	125
長期借入金	**484**	**503**	18
その他	**1,316**	**1,611**	294
負債合計	3,905	4,322	416
資本金	1,165	1,165	—
資本剰余金	0	0	—
利益剰余金	2,260	2,140	△ 119
その他包括利益他	144	156	12
純資産合計	**3,569**	**3,462**	△ 107
負債・純資産合計	7,475	7,784	309

連結貸借対照表･･･総資産回転率は0.96回

ーが棒グラフを上回ると総資産回転率1回転以上

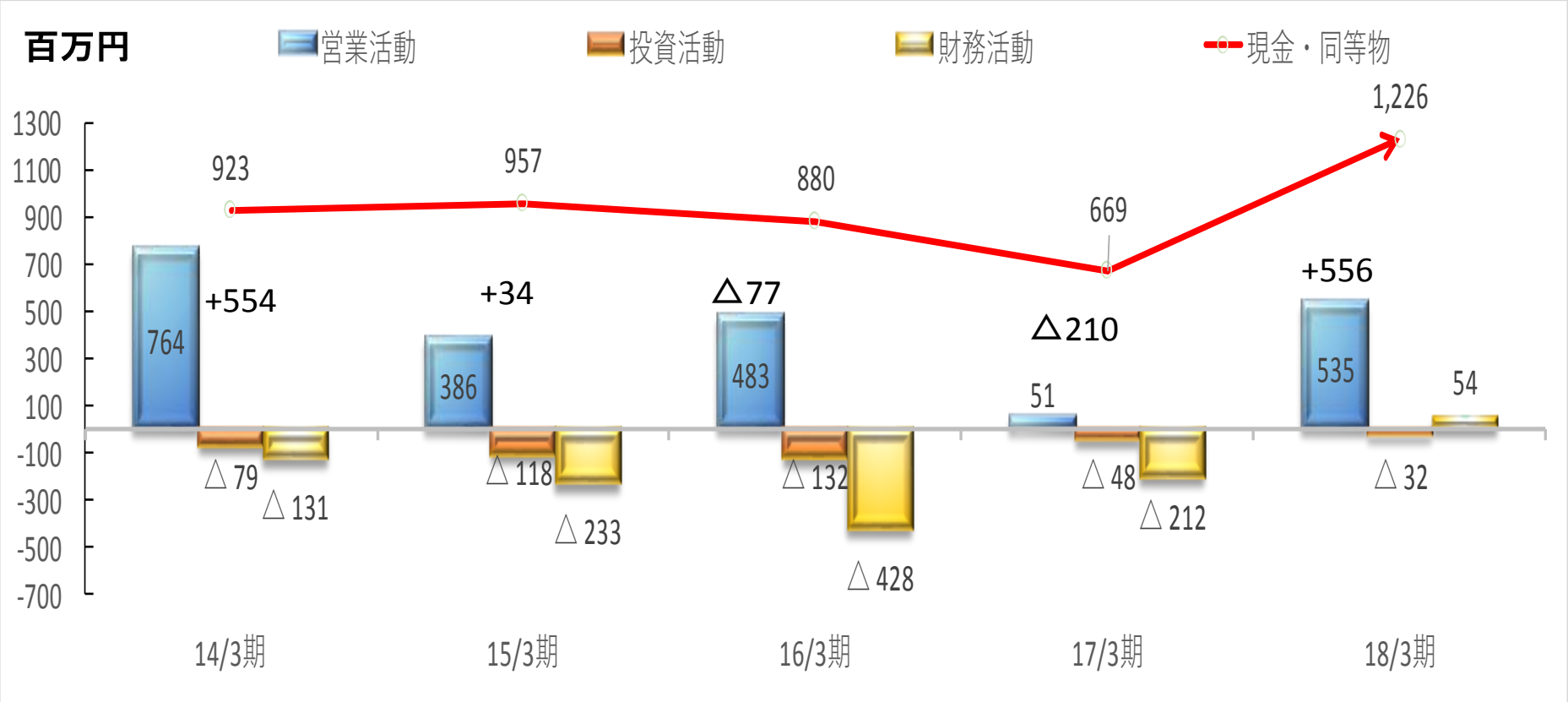
左：資産
右：負債、純資産

百万円



キャッシュ・フロー（CF）

- 営業CFは535百万円の資金収入・・・税前利益と棚卸資産の減少
- 投資CFは32百万円の資金支出・・・設備投資資金70百万円
- （+502百万円のフリーキャッシュ・フロー）
- 財務CFは54百万円の資金収入・・・資金調達、借入金返済、配当金支払い
- 現金及び現金同等物の期末残高は1,226百万円（前期末比556百万円増加）



2019年3月期連結業績見通し

- 「2018中期経営計画」（初年度）に沿い、『①粗利率のｱｯﾌﾟ、②固定費低減、③売上拡大』の具現策を推進し、高原価をおこさない体制の構築、新機種開発による海外市場拡大、10%生産性向上計画の実施により、利益の出やすい収益構造を回復させ、高収益の再現を目指す。
- ～ 新型RPD機の開発、ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ機械のﾛﾎﾞｯﾄ化を進める。
- ～ﾄﾝﾈﾙ先進調査ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ、ﾘﾆｱ関連ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ、温泉開発、大都市再開発、BM工事にて受注・売上確保する。

（単位：百万円）

	18/3期	19/3期	増減	
売上高	7,448	7,980	531	7.1%
営業利益	71	420	348	487.6%
経常利益	69	410	340	487.1%
当期純利益	Δ 30	320	350	-

注）上記予想は、当社が2018年4月26日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる可能性があります。

ご清聴ありがとうございました